

研究テーマ：英語での自己表現力(書く力)を身につけさせるための指導の工夫

所属 高知県立大桁高等学校

氏名 渡邊 知恵

R G S H 7

1 研究の背景

本校1年生は24名である。英語Ⅰ（週3）、OCⅠ（週2）とも習熟度別に2クラスに分けて授業を行っている。そのうち私が担当しているのは、男子4名、女子10名の計14名である。日頃の授業に関する課題としては、多くの生徒が英語そのものに苦手意識を持っていること、英語で自己表現（英作や英会話）する力が弱いことがあげられる。

2 リサーチ・クエスチョン(アクション・リサーチⅡ)

英語での自己表現力(書く力)を身に付けさせるにはどうすれば良いか。

(アクション・リサーチⅠでは「自己表現力」としていたが、Ⅱでは更に「書く力」に限定した。)

3 予備調査

① 授業観察の結果

1学期は落ち着きが無く、ほとんど授業に集中できず席を立っていた生徒も、2学期は比較的落ち着いて、発言や発表する機会も増えてきた。クラスの雰囲気は良い。

② 生徒の英語学習意識

教科書の内容も徐々に高度になっていくせいか、より一生懸命授業を聞こうとする生徒が増えた。しかし、授業参加のまじめさや勤勉さが、必ずしも成績に結びついてはいない。

③ 英語力を示すデータ

2学期最初の課題テスト

平均57.2点(90点台2名、70点台2名、50点台3名、40点台5名、30点台2名)

2学期中間テスト

平均75.9点(100点1名、90点台3名、80点台2名、70点台3名、60点台3名、50点台1名、40点台1名)

4 仮説の設定

仮説1 授業の流れを考慮し、可能なときには必ず **Warm up** としてゲーム的な要素を取り入れれば、生徒の気持ちを授業に向け、英語学習に対するやる気を喚起することができる。

仮説2 英単語帳を必携とし、定期的に英単語テストを行えば、語彙力を高めることができる。

仮説3 **Reading Test** や英借文を行うことで、必要な表現をより容易に覚えることができる。

仮説4 オリジナル絵本作成を目標にすれば、効果的にいろいろな表現を学ぶことができる。

5 計画の実践

- 仮説 1 英語 I、OC I を問わず、可能なときには **Warm up** としてゲーム的な要素を取り入れる。前時の復習を兼ねることができれば更に良い。
- 仮説 2 英単語テストを定期的に行う。
- 仮説 3 **Reading Test** を行う。また、覚えてほしい **Target Sentence** を英借文で練習し、記憶させる。
- 仮説 4 学習した英語の表現を使つてのオリジナル絵本作成をさせる。

6 実践の結果

- 仮説 1 2 学期は英語 I が 29 時間、OC I が 19 時間あり、うち 27 時間は最初にゲーム的な要素を取り入れた。苦手意識を持つ生徒も英語に親しみ活躍できる場を持つことができた。
- 仮説 2 **ESSENTIAL WORDS 1**(中部日本教育文化会)を必携とし、月 1 回実施した。
英単語テスト 4 回分の平均 73.5 点 (1 学期より 2.9 点アップ)
90 点台 3 名、80 点台 2 名、70 点台 4 名、60 点台 2 名、50 点台 3 名
- 仮説 3 英語 I Lesson 5 の **Reading Test** を実施した。覚えてほしい **Target Sentence** を英借文で練習し、記憶させ、定期テストで確認をして定着を図った。期末テストでは、英借文で練習した受け身の文を日本語だけを与えて英作させたが、14 人中 8 人が正解していた。**a** と **the** の冠詞のまちがいのため不正解となった生徒も含めると、11 人が正解していた。
- 仮説 4 英語 I、OC I 計 8 時間を使って、絵だけの絵本「**The Snowman**」に説明やセリフを英語に加え、オリジナル絵本を作成させた。

7 結果の検証

ゲーム的な要素の導入、英単語テスト、**Reading Test** や英借文練習を通して書く力を身に付ける取組を行った。身についた力の集大成として「**The Snowman**」のオリジナル絵本作成を試みた。最低 15 文は作ってもらい、**Would you like to ?**、**be going to**、**Let's** の表現を共通とした。指定した表現以外でも様々な文章があがり、生徒は「難しい」と言いつつも、一生懸命取り組んでいたと思う。

8 成果と今後の課題

- ・ゲーム的な要素は内容をやや容易なものとし、苦手意識を持つ生徒も一緒に楽しんで参加することができた。しかし、内容の吟味と時間配分への配慮は必要である。
- ・月 1 回の英単語テストは生徒に定着し、自主的に休み時間などに勉強する姿勢も徐々に身につけてきた。継続して行っていきたい。
- ・**Reading Test** では、生徒が音読の際つまづくポイントを把握でき、後から重点的に復習することができた。しかし、1 回しか実施できなかったのも、必要な表現の定着には至っていない。
- ・絵本作りでは、辞書を引くことに慣れていない生徒に、放課後の時間帯などを利用して、活用指導を行うことができた。感想を見ると、英語に対する前向きな姿勢を少しは持ってもらえたのではないと思われる。ただ、具体的にどれだけ書く力が付いたかが明確に把握できていない。
- ・英語に興味をわき、自主的に学ぶ気持ちが芽生えれば、自己表現力(書く力)もより容易に身に付いていくのではないだろうか。能率的・効果的な方法を、これからも追求していきたい。